

令和7年度
NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業
報告書

地域力をエンパワメントするこどもの遊び場・居場所づくり支援事業

一般社団法人プレーワーカーズ
(石川県鳳珠郡能登町)

目次

1. 事業目的	P. 3
2. 事業概要	P. 3
3. スケジュール	P. 4
4. 実施内容	P. 5
(1) 能登町	P. 6
● 活動実施場所、参加人数、活動内容、活動の様子（写真）	
● アンケート結果（対象：保護者）	
● 活動の成果、課題、今後の展望	
(2) 輪島市、珠洲市	P. 11
● 活動実施場所、参加人数、活動内容、活動の様子（写真）	
● アンケート結果（対象：保護者）	
● 活動の成果、課題、今後の展望	
5. 資料	P. 16

1. 事業目的

1. 能登半島地震及び能登半島豪雨の影響により喪失感やストレスを抱えた子どもの心のケア（緊急子ども支援）
2. 地域で子ども支援をしている支え手の支援を意識し、将来的に地域に根付く遊び場・居場所づくりを興していくこと（支援者支援と復興まちづくり）

2. 事業概要

能登半島地震及び豪雨により、日常の遊び場を失い、目に見えないストレスや不安を抱える子どもに対し、安心・安全に過ごせる「居場所」を継続的に提供する。

具体的には、プレーカー（遊び道具満載の乗用車）を金沢市内の指定駐車場から走らせ、能登町・輪島市・珠洲市の各地区の活動場所（公園・公民館・小学校・仮設住宅集会所など、できる限り屋外空間）を定期的に巡回し、参加費無料・年齢不問・プログラムなしの遊び場づくり支援を実施した。遊びの内容は、シャボン玉、木工作、ロープ遊具、たき火、ボードゲームなど、季節や空間、子どもの年齢やその時々のお気持ちに合わせて柔軟に展開した。

本事業の実施にあたっては、被災した子どもたちの複雑な心のケアに適切に対応するため、高度な専門スキルと経験を持つプレーワーカーを全国から招集し、毎回2～3名体制で配置した。単発のイベントで終わらせず、遠方からであっても同じ地域へ定期的に通い続けることで、子どもたちとの信頼関係を築き、環境設定や安全管理を徹底しながら、地域に根付く居場所の基盤づくりを行った。

3. スケジュール

月に2日間（土・日）の遊び場開催を行った。

プレーワーカーを全国から招集し、被災地支援として行ったため、遊び場活動の前後に移動・準備、買い出し・打合せ・ふりかえりのための活動日も設けた。

【基本となる行程】

金曜日：各自金沢まで移動・準備、買い出し・打合せ

土曜日：金沢から能登半島内の活動場所へ向かい、遊び場開催。半島内宿泊

日曜日：遊び場開催。金沢へ移動

月曜日：ふりかえり実施、各自自宅まで移動

○各地区の活動日・場所・天候・人数は下記の表のとおり

遊び場・居場所づくりによる奥能登の子ども支援活動									
	能登町			輪島市			珠洲市		
	日付・活動場所・天候	人数(子)	人数(大)	日付・活動場所・天候	人数(子)	人数(大)	日付・活動場所・天候	人数(子)	人数(大)
4月	27日 柳田植物公園 晴・強風	46	51	26日 語馬処・タマリバ 晴	18	20			
5月				17日 語馬処・タマリバ 晴時々雨	21	15	18日 正院小学校 晴	11	10
							31日 大谷小学校仮設 晴	5	10
6月	1日 真脇遺跡公園 晴	15	14						
	28日 日本海倶楽部 晴	12	9	29日 一本松公園 晴	15	5			
7月	20日 柳田植物公園 晴	30	20	19日 一本松公園 晴	25	5			
8月	23日 宇出津小学校 晴	23	23	24日 河井小学校 晴	25	10			
9月	13日 松波中央公園 小雨	24	14	14日 一本松公園 晴	16	3			
10月	26日 大屋根広場 雨	20	20	25日 一本松公園 晴	20	5			
11月	16日 崎山中央公園 晴	30	25	15日 一本松公園 晴	15	5			
12月	21日 三波公民館 雨	13	6	20日 一本松公園 晴	14	5			
1月	24日 大屋根広場 雪	11	9	25日 一本松公園 雪	18	8			
2月	28日 柳田植物公園 雨のち晴	5	8						
3月				1日 一本松公園 晴	16	9			
	14日 崎山中央公園 くもりときどき雨	57	12	15日 一本松公園 晴	15	11			
合計		286	211		218	101		16	20

4. 実施内容

■実施体制と安全管理・心のケア

- スタッフは、地域のキーパーソン1名、プレーワーカー3名で開催。
- スタッフは社会福祉協議会のボランティア活動保険「天災・地震保障プラン」に加入、団体としては賠償責任保険に加入済
- プレーワーカーは、遊び場運営において、「適切なリスク管理とハザードの除去」を心がけている。「適切なリスク管理とハザードの除去」とは、子どもが遊ぶ中で予測や対処が困難な危険（ハザード）は大人が取り除くものの、やりたいことをやるときに内在する危険（リスク）まで排除して、遊びの楽しさを奪うことのないように子どもの成長に必要な危険（リスク）はあえて残しておくという考え方のこと。
- 被災地域にいる子どもに対しては、子ども自身が本来持っている回復力（レジリエンス）を尊重し、その力が発揮されるよう、安心して遊べる環境の確保を重視した。
- 関わりの中では、被災状況や家庭環境等について大人側から過度に聞き出すことはせず、子どものペースを尊重した関係づくりを行った。
- 子どもから被災体験や不安に関する発言があった場合には、それを否定・評価せず受け止め、傾聴を基本とした対応を行った。また、大人の価値観や解釈を一方的に重ねることは避けた。
- 日常的な遊びや他者との関わりを通して、安心感や自己肯定感の回復につながる場となることを意図して運営を行った。

(1) 能登町

■活動実施場所

能登町内8か所

(宇出津小学校、大屋根広場「みなとの二つ」、三波公民館、崎山中央公園、日本海倶楽部、松波中央公園、真脇遺跡公園、柳田植物公園)

各地の状況を把握しつつ、子どもがいるところへ出向くために、巡回型で行った。



■参加者

親子での参加が多かった。幼児や小学生の親子以外にも、中学生、高校生、大学生（金沢や東京など）の参加もあり、多世代で遊んでいる姿がたくさん見られた。

子ども：286人

大人：211人

■活動内容

子どもが自由に遊ぶことのできる外遊びの場を開催。天気によっては室内スペースも設け、室内遊びの場所も提供した。

【外遊び】

けん玉、コマ、縄跳び、木工作、皿回し、水遊び、火遊びなど

【室内遊び】

工作、おしゃべり、カードゲーム、風船バレー、フリスビーなど

■活動風景



雪遊びの様子（みなとのニワ）



水遊びの様子（日本海倶楽部）



火を囲んでいる様子（真脇遺跡公園）



室内遊びの様子（三波公民館）



PTAとの共催（宇出津小学校）



落ち葉で遊んでいる様子(崎山中央公園)

■アンケート結果（対象：能登町在住の保護者8名）

※本アンケートは、事業の成果をより具体的に把握するため、急遽令和8年2月～3月の各遊び場開催時に、継続して参加されている保護者を中心に紙のアンケート用紙及びヒアリングにて実施したものです。短期間での実施のため回答数は限られていますが、震災直後から継続して参加している保護者からの、非常に実態に即した貴重な声となっています。

実施期間：令和8年2月28日、3月14日

実施方法：会場での紙アンケート

回答者：未就学児、小学生の保護者

設問1：お子さんは楽しそうに過ごしていましたか？

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. とても楽しそうだった・・・6名 | 2. 楽しそうだった・・・2名 |
| 3. 少しつまらなそうだった・・・0名 | 4. つまらなそうだった・・・0名 |

設問2：遊び場開催は、保護者の皆様の復興の支えになりましたか？

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. とてもなった・・・6名 | 2. 少しなった・・・2名 |
| 3. あまりならなかった・・・0名 | 4. ならなかった・・・0名 |

設問3：遊び場開催への感想、意見があれば自由にお書きください

- 子どもだけで遊ばせるのが不安な場所でも安心して遊ばせることが出来て有難い。色んな方と交流できるのも魅力です。
- いつもは一人で自然で遊んでいますが、友達も一緒に楽しめていてよかったです。
- このイベントは、子どもに何かをさせないといけないという縛りが無いのが良かったです。気楽に準備が出来た時間に行けば子どもが楽しんで帰ってこれるという丁度いい場所です。
- 雨天が多い地域なので、屋内での開催場所も含め行政と地域で応援できればいいと思った。
- 引っ込み気味な子が楽しんで遊んでいたの、私も嬉しく過ごせました。
- 昔のおもちゃなどがあって面白かった。

- 遊ぶところがない、公園がない中で遊び場があるととても良いと思った。
- 外で遊ぶ良いきっかけになりました。

設問4:今後、能登の子どもたちの遊び環境はどうなっていくと良いと思いますか？

- 大人のルールや権利関係で里山里海での遊び方が制限されつつある時代なので能登の子どもの遊びらしい遊びが失われつつある。
- 外では遊べない時季も多いので、1つでいいから室内の遊び場が欲しい。
- 都会とは違い、外でボール遊び、自転車や自然の中での遊びがしやすい面もあるので、保護者（家庭）が能登で子どもを楽しませる意識や目の向け方も必要。
- 親がいなくても安全で遊べる環境になればいいなと思う（子）
- 室内でも遊べる場所が増えるといいなと思う（親）
- 能登には遊び場がありそうでないので、子どもたちは家の中でゲームをしたりして遊んでいるのが現状です。大人が何か考えてあげないとこの状況は変わらないのだと思います。
- ボランティアさんと遊ぶと楽しそうなのでまた違う一面も見れるのでこのような環境が増えていけばいいと思います。
- 能登は遊び場が少ない。遊具などの充実を願います。子どもの遊び場の活動みたいなのが増えればうれしいです。
- 気軽に遊べる場所があるといいと思った。
- 遊び場・室内の遊び場を作ってほしい。

■活動の成果、課題、今後の展望

本年度の最大の成果は、前年度からのつながりが線になり、子どもが遊ぶ環境の復興への道筋が見えてきたことです。

活動を熱心に視察してくれていた教育委員会からの依頼で、教員向けの研修を宇出津小学校内で実施し、次の日には、昨年度も協力した宇出津小学校PTAと共催で遊び場づくりを行うことができました。

また、健康福祉課との連携は、補助事業にとどまらず、今後を見据えた相談や対話を通じ目線を合わせることができたので、次年度の計画づくりにおいても非常に具体的で実現可能性が高い目標とスケジュールを組むことができました。

子どもの遊び場づくり（＝プレーパーク）は地域と子どもが共に作ることが重要視されていますが、チラシの裏面にメッセージを載せて各小学校へ配布したことにより、協力してみたいという地域の方が現れたことも大きな成果でした。

参加している子どもたちからは「次いつ来るの?」といった声や、保護者からは「家でゲームばかりしているからこういった場は有難い」「こういう場所って大事ですよ」といった声を聞き、震災から2年が経過しようとする今年度の活動は、まだ必要性があると感じさせられたことも大きな成果の一つであると感じています。

しかしながら、東日本大震災の時と比較して、復興予算が早い段階で方向転換しており、県外から通う私たちの支援の幅の限界も感じています。今後能登町で子どもの遊び場（＝プレーパーク）を地域の人主導で開催できるようにしていくにあたり、プレーパークづくりを担う運営者やプレーリーダー（子どもと遊びを通して向き合う大人）を見つけていくことが課題として挙げられます。また、天気によって左右されやすい石川県の天気事情も外遊びの場を開催していく上では、工夫が必要だと考えています。実際に雨や風の強い日の開催は参加者人数が少なく、保護者の外に出ることのハードルの高さを感じています。

本年度は、年度末の短期間でのアンケート実施となりましたが、次年度は年間を通して定期的に保護者や子どもの声（ニーズ）を収集する仕組みを構築していきます。今後の展望としては、能登町の子どもたちがのびのびと遊ぶことのできる環境を作るため、「プレーパーク」を普及し、その場づくりを担える人材を発掘・育成することに注力したいと考えています。

実施内容 輪島市・珠洲市

(2) 輪島市・珠洲市

■活動実施場所

・輪島市 3か所

(一本松公園、馬場崎通りにある震災後中高生が作った空き地”タマリバ”、河井小学校)

輪島中学校の避難所から活動を始めたので、一本松公園を中心に季節や内容に合わせた。



・珠洲市 2か所

(正院小学校、大谷小中学校横仮設住宅集会所)

避難所の活動でのつながりで行っている。



■参加人数

【輪島市】

常連の小学生が定着してきた。昨年度から遊具づくりなどを通じて繋がりが深まった中高生も参加した。保護者は、一緒にいる場合もあるが、様子を見に来る程度で、ほとんどは子どもだけでの参加だった。

子ども：218人

大人：101人

【珠洲市】

避難所の頃からつながりのある小学生を主な対象に活動した。

子ども：16人

大人：20人

■活動内容

子どもが自由に遊ぶことのできる外遊びの場を開催。

ロープブランコ、たき火、水遊び、ザリガニ釣り、雪遊びなど

■活動風景



昨年度作成した「タマリバ」のすべり台



タマリバで遊んでいる様子



一本松公園でのブランコ



ザリガニつり



一本松公園での流しそうめん



河井小学校での水遊び



正院小学校



大谷小学校仮設住宅集会所

■アンケート結果（対象：輪島市在住の保護者3名）

設問1：お子さんは楽しそうに過ごしていましたか？

1. とても楽しそうだった・・・3名
2. 楽しそうだった・・・0名
3. 少しつまらなそうだった・・・0名
4. つまらなそうだった・・・0名

設問2：遊び場開催は、保護者の皆様の復興の支えになりましたか？

1. とてもなった・・・3名
2. 少しなった・・・0名
3. あまりならなかった・・・3名
4. ならなかった・・・0名

設問3：遊び場開催への感想、意見があれば自由にお書きください

- 震災直後から子どもたちが参加させていただいています。体を動かす場が減り、地震の怖さも知って不安な気持ちがある中、運動不足解消と気分転換が出来て、親としても子供の成長にいい影響を与えてもらっていると思っています。とても有難いです。
- 非常に助かっています！これからも叶うのであれば続けてくださると嬉しいです。このようなコミュニティーがあると大人の我々もお話しができて楽しいです。
- 冬も引きこもりにならなかったのも(冬の遊び)本当に子どもたちが楽しく過ごせました。今後もこの活動が続けば嬉しいと思いました。ここで楽しく活動できたことをもっと広めていけたらと個人的に思っています。

設問4：今後、能登の子どもたちの遊び環境はどうなっていくと良いと思いますか？

- 地元の方だけだとすごく限界を感じていますので、色々な形の支援やアイデアが必要です。人口流出の影響も強くて遊び環境はどうなっていくか不安しかありません。子どもが少なくなっていく一方なので色々な面で考えていかなければいけないですね。めげずに頑張っていきます。
- 今はまだ公園などに仮設住宅などが建ち、走り回ったりする場所が少ないので、少しずつでも広くてガタガタではない安全な広場が出来ていけばいいと思います。
- 当たり前が出来ていたことが出来ない状況になっても、遊び場を自分たちで作れるような活躍出来る環境づくり、少しずつ元の生活に戻りつつありますが、学校以外の活動でスポーツクラブのつながりのみなのが寂しいので、スポーツクラブなどもあるのがいいのですがそれ以外でこの遊び場のような活動で能登を楽しんでほしい。

■活動の成果、課題、今後の展望

○輪島市

昨年度に引き続き子どもたちの外遊びの場を定期的で開催できたことが大きな成果でした。能登町では各地区を巡回しているのに対し、輪島は同じ地区で遊び場を開催しているため、常連の子どもたちの参加が大きく増え、「居場所」としての機能を感じています。また、開催場所のひとつである輪島市の中高生が作った空き地につくった手づくりのすべり台は日常の遊びを支えるシンボルになりました。この手づくり遊具は、昨年度の3月に福島県郡山市のユースセンターの若者と輪島市の若者の交流も兼ねて、制作しました。遊具づくりの日の当日は、いつも遊びに来る小学生とも一緒に作りました。「一緒につくる」ということが、自分たちの場所（＝居場所）につながっていると考えられます。このように、定期的と同じ場所で遊び場を開催することは、子どもたちへの安心感につながっています。それはアンケート結果にもあるように、保護者から「毎回子どもが楽しみにしている」「こういった場所が有難い」という声からも感じられ、大きな成果の1つだと考えています。

また、子どもの変化は、月に1度の開催頻度でも確実に見て取れます。特に避難所での開催時から関わりのある子どもは保護者を含め、少しずつ安定してきているように感じます。保護者や安心できる大人がいない場所では離れて遊ぶことがなかった子が、子ども同士で遊ぶようになりました。子どもが安心した様子で遊ぶ姿を見て、保護者にも笑顔が多く見られるようになり、世間話をする余裕も生まれています。

課題は、すでに子どもの居場所となっているこの月1回の遊び場をどのように継続・展開、あるいは収束・縮小していくのか未だ不透明という点です。震災以前、そして避難所時代もずっと子どもや若者と向き合ってきた地域のキーパーソンの方の考えに寄り添いながら、今後も関わりを続けていきたいと考えています。

○珠洲市

今年度2回遊び場を開催しました。回数としては少ないですが、他の団体が子どもの遊び場を定期的で開催していたこともあり、回数を減らしつつ遊び場の開催を続けました。成果としては、震災直後から活動している場所ということもあり、間隔があいたとしても「久しぶり！」と言い合える関係性を保つことが出来ていること、子どもたちの成長が見られたことでした。

保護者からも「他の団体は平日をカバーしてくれているが、週末の子どものためのイベントはない」「地震への恐怖もあり、子ども同士で遊ぶ機会がなくなっている」という声があり活動継続の必要性を感じることができました。

今後については、輪島市同様、どのようにこの活動を展開していくのかを慎重に検討する必要があるということが挙げられます。

5. 資料

・能登町での広報チラシの一例（表面）

子どもの遊び場in能登町

2月28日(土) 柳田植物公園
3月14日(土) 崎山中央公園

11:00~16:00

遊び道具をつめこんだあそびクルマがやってくる!

ソーセージやマッシュマロなど焼きたいものもっておいで!

Instagramアカウントはこちら

対象 誰でもどうぞ
参加費無料、申し込み不要、子どもだけでもOK

内容 決まった遊びのプログラムはありません
子どもの「やってみたい」を大切に
自由にのんびり、好きなだけ

一般社団法人プレーワーカーズ 担当：廣川

お問い合わせ ☎ **090-6459-5225**
🌐 <http://playworkers.org/>

主催：一般社団法人プレーワーカーズ
(宮城県名取市)

【協力】
・能登町にプレーパークをつくる会  **Playworkers**

【助成】
・こども家庭庁・能登町：令和7年度「NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業」

『能登町にプレーパークをつくる会』 仲間になりませんか？

子どもたちが思いきり遊べる場所が、能登町にもっとあったらいいな。
木登り、泥んこ、火を使った遊び…禁止事項だらけじゃない、
子どもがやってみたい！を応援する「冒険遊び場＝プレーパーク」。



東京や東北のプレーパークのように、大人が「管理する」遊び場ではなく、
地域みんなで「育てていく」遊び場を、能登町にもつくりませんか？

今、私たちは「能登町にプレーパークをつくる会」を立ち上げ、
この場所づくりに一緒に関わってくれる仲間を募集しています。
プレーパークづくりに関心のある方、
子どもたちの育ちや遊びの環境に興味のある方、
何かやってみたい！という思いを持っている方、
まずは遊び場で気軽にお話ししましょう。



私たちと一緒に、「自由に遊べる場所」を能登町に。

◎興味のある方は、ぜひご連絡ください！

◎立ち上げミーティングやプレーパーク現地見学会なども企画中です。

能登町にプレーパークをつくる会
木村 聡

能登町に 初のプレーパークを！

プレーパークは、すべての子どもが自由に遊ぶためにみんなで手作りする遊び場です。

「小さな遊び場よりも、ガラクタがころがっている空き地や資材置き場の方が、子どもたちが喜んで遊んでいる」というデンマークの造園家の発見が起源だったそうです。その後、東京都世田谷区を皮切りに1970年代から日本でも広がり始め、現在は全国に約450もの活動があります。それは、自由な遊びを保障するために、行政や専門家から「責任」を返還してもらい、「負つ」覚悟を持った市民主体の社会運動の歴史でもあります。

もちろん、子どもも自分の意志で遊びを選択・決定する権利と能力を持ち合わせているので、その力を信じて必要以上の干渉をしないという大人の努力や備えも必要です。

つまり、プレーパーク（＝冒険遊び場）をつくり、子どもが本来持っている力を最大限引き出すための遊び環境を返すこの活動は、リスクに挑戦する大人の「冒険」でもあります。

プレーワーカーズ理事 廣川和紀

・輪島市での広報チラシの一例

輪島の若者たちが作った空き地で遊ぼう



日にち・時間
5月17日(土)
10:00~16:00

場所：輪島市馬場崎通り
時計屋キロクさん横
(駐車場なし)

対象：だれでもどうぞ
参加費無料/子どもだけの参加もOK

遊び場通信
2025年
5月号



お昼ごはんにスープ作るよ
食べたい人は
切った材料持ってきてね
おにぎりがあるといいかも？



あるとよい持ち物
汚れても良い恰好
お昼ご飯、飲み物など



プレーワーカーズInstagram
活動予定や情報を
upしています！



主催
一般社団法人プレーワーカーズ

協力：nakyā
馬場崎通り商店街にある
中高生による古着屋



助成：
こども家庭庁・能登町：令和7年度「NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業」
「ボラサボ・令和6年能登半島地震」第7回中長期助成事業

赤い羽根共同募金

前回の様子



輪島にあの有名な！？
ついに、すべり台に色を塗りま
した。みんなで好きな色を作
って飾ったよ。あれ？これって
あの有名なイギリス人アーテ
イストの作品？まさか輪島
に？真相はいかに！（なっつ）

問い合わせ先：一般社団法人プレーワーカーズ 担当：堀田・廣川(080-6944-6359/090-6459-5225)

・アンケート資料

本年度は、年度末の短期間でのアンケート実施となったため、とても簡易的なものになりましたが、次年度は年間を通して定期的に保護者や子どもの声（ニーズ）を収集する仕組みを構築していきます。

【遊び場アンケート】

1. お子さんは楽しそうに過ごしていましたか？

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. とても楽しそうだった | 2. 楽しそうだった |
| 3. 少しつまらなそうだった | 4. つまらなそうだった |

2. 遊び場開催は、保護者の皆様の復興の支えになりましたか？

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. とてもなった | 2. 少しなった |
| 3. あまりならなかった | 4. ならなかった |

3. 遊び場開催への感想やご意見などあればご自由にお書きください

4. 今後、能登の子どもたちの遊び環境はどうなっていくと良いと思いますか？

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。